

子どもの宿題、悩んでませんか？

講師：宇野 由紀子（名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程後期課程）

世話人：

宿題は、今や当たり前のように存在しています。学校の授業の予習・復習を中心とした補助的な役割を担うものだけではなく、授業から発展した内容に取り組むものもあります。また、夏休みなどの長期休暇には、自由研究や感想文などといった教科教育の内容とは異なる様々な宿題があります。

宿題はそもそも、学習習慣を身につけて、学校以外の様々なところで子どもたちが自ら学ぶことをアシストするようなものであるべきだと考えています。しかし、そうした宿題の本来あるべき姿が、現在は歪んでしまっているのではないのでしょうか。この分科会では、宿題の本来の目的と、それを歪ませるのは何かを、学校を取り巻く社会状況などから分析します。

宿題によって生じている問題点を明らかにすることによって、これからの宿題のあるべき形を考えます。そして、親として、また指導員として、宿題に取り組む我が子・学童にくる子どもたちにどう関わるか、そして宿題や学校とどう向き合うか、という手がかりを一緒に考えていきましょう。

《スケジュール（講義予定）》

1. 宿題の目的：歴史、宿題の目指すべきところ
2. 宿題の目的を歪ませるのは何か？
 - ① 進学、受験と宿題
 - ② “サービス”としての宿題
 - ③ 評価の視点の導入
3. そこから生じる問題の指摘：子どもの学習する権利を保障するために
4. これからの宿題の形を考える